

## 常磐大学&水戸H.H.Hコラボデー開催

ホームゲームのイベントを企画・運営し、地域の活性化を促進する

▼学校法人常磐大学が設置する各学校の学生、生徒、園児らが水戸ホーリーホックのホームゲームを楽しく盛り上げた。



**学** 学校法人常磐大学と株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックは、2月23日に締結した連携協力協定に基づき、8月29日に行われた対サガン鳥栖ホームゲームを「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー」として開催。学校法人常磐大学が設置する各学校の学生や生徒、園児らが水戸ホーリーホックの試合運営およびイベントに参加・協力した。目的は、水戸ホーリーホックのホームスタジアムへの観客を増やし、そのにぎわいを地域の活性化につなげること。また、学生や生徒、園児らに新たな教育場面を提供することで、豊かな人間性を持った優れた人材を育成する効果も期待される。

当日は午後4時の開門と同時に、さまざまな企画がスタート。スタジアム周辺に設置されたキッズイベントなどのブース前には、順番を待つ子どもたちの長蛇の列ができた。スタジアム内でも試合開始前とハーフタイムにさまざまなイベントが展開され、スタジアムを訪れた多くの観客を楽しませていた。

### 【イベント実施内容】

#### 常磐大学・常磐短期大学

##### ■常磐大学MBPコンテスト

～青が似合う美少女を探せ～(写真③)

水戸ホーリーホックのチームカラー“ブルー”が似合う常磐大学生・短大生を、スタジアム来場者の投票で決定。

##### ■フレンドリーブルーシート

バックスタンドゴール裏の芝生に広げた“ブルー”のシートで、仲間と一緒にクイズや応援を楽しむ。

##### ■学生考案特別限定メニュー販売

「キッチンしまだ」「グルービー」の協力で限定メニューを販売。

##### ■キッズイベント(ミニゲーム・キックターゲット)(写真④)

##### ■フェイスペイント

##### ■運営ボランティア

#### 常磐大学高等学校

##### ■チアリーダーダンスパフォーマンス(写真⑤)

##### ■男子サッカー部によるボールパーソン、担架隊

#### 智学館中等教育学校

##### ■サッカー部によるエキシビジョンマッチ(写真②)

##### ■生徒によるフェアプレーフラッグベアラー

#### 常磐大学幼稚園

##### ■園児によるエスコートキッズ(写真①)

##### ■ホーリーくんぬりえ展示

#### 常磐大学吹奏楽団&TOKIWA おんぶの会(OB会) 合同演奏(写真⑥)



## ●発達障害児の支援事業「すこやか健診」に協力

### ●高萩市と常磐大学との子育て支援に関する協定を締結



常磐大学は2009年12月11日に「高萩市と常磐大学との子育て支援に関する協定」を締結した(写真・左)。この協定に伴い、高萩市が実施する「平成22年度乳幼児健康診査二次健診(すこやか健診)」に、コミュニティ振興学部の水口進教授を派遣。4月より定期的に毎月1回、発達障害児の支援を行っている。発達障害には、言葉が遅い、落ち着きがない、自閉などの症状があり、放置すると問題行動を起こす恐れもある。水口教授は「自分の子どもで気になる事があれば、3歳頃までに健診に来ていただきたい」と、早い時期の健診を呼びかける。また、発達障害児は適切な



水口進教授

な対応をすることで行動が改善されることから「地域療育をしっかりと行うことが必要」と、適切なプログラムで専門家が指導する、身近な施設を各地域に設置することの重要性を語っていた。

子育て支援は社会的にも重要性が高まっており、さまざまな角度からの取り組みが期待される。この協定に基づき、今後、子育てに関する各種講演会の開催や、子育て支援事業への学生参加なども実施される予定だ。

## TOKIWA campus report.

### ときわキャンパスレポート

### 読売新聞・常磐大学「連続市民講座」公開シンポジウム vol. 1

## これからの福祉のまちづくり～地域の包摂と排除をふまえて～



古川孝順氏

2010年度読売新聞東京本社水戸支局・常磐大学「連続市民講座」第1回公開シンポジウム「これからの福祉のまちづくり～地域の包摂と排除をふまえて～」が、7月10日に開催された。基調講演を行ったのは、日本社会福祉学会会長、東洋大学ライフデザイン学部教授の古川孝順氏。「生活の危機、どう対処するか～新しい福祉のあり方を問う～」というテーマで、社会福祉の展望を語った。シンポジウムは討論者発表でスタート。水戸スピニング・フープス・レボリューション代表の齋藤信之氏が「身体障害者にとってのまちのバリアフリーの実現に向けて」、特定非営利法人生活支援ネットワークこもれび理事長の榎田美紀子氏が「『だれもが住み慣れた地域で生きること』に取り組んで」、コミュニティ振興学部の中村英三准教授が「認知症高齢者のグループホームができるまでとこれから」をテーマに発表し、その後、コミュニティ振興学部の池田幸也教授をコーディネーターに討論が行われた。



### 茨城大学「愛と傷つきやすさの研究会」と常磐大学国際被害者学研究所の共同研究会

## 「愛と傷つきやすさと被害者学の共同セミナー」第1回研究会開催

7月31日、茨城大学茨苑会館において、常磐大学国際被害者学研究所と茨城大学人文学部「愛と傷つきやすさの研究会」との共催で、『愛と傷つきやすさと被害者学の共同セミナー』第1回研究会が開催された。共同開催は初めての取り組みであったが、双方の教員、学生、また学外者ら、約50名が参加。発表に続いて活発な質疑応答、意見交換がなされ、今後の連携強化につながる有意義な研究会となった。

(発表者：発表順)

- 茨城大学人文学部 原口弥生准教授  
「将来に向けた災害回復力の形成—ハリケーン・カトリーナ災害はいかに都市を変えたか」
- 常磐大学国際被害者学研究所・人間科学部 キーラン・マンディ教授  
「気候に制約された世界における被害」
- 茨城大学人文学部 小泉由美子教授  
「アメリカ女性詩における母親像—シルヴィア・プラスの場合」
- 常磐大学国際被害者学研究所長 ジョン・ドゥーシツ教授  
「犯罪ならびに権力濫用の被害者のための国連条約の必要性」



## Tokiwa Interview

## 『開かれた大学』を目指して

森 征 一 氏

学校法人常磐大学 常任理事

研究教育支援(研究教育支援センター、情報メディアセンター、国際交流語学学習センター)、開学100周年記念講演会担当

開学101年目を迎えた学校法人常磐大学は、次の100年に向けてどのような方向へ進むべきなのか。今年度より学校法人常磐大学常任理事に就任した森征一先生に、これからの常磐大学についてお話を伺った。

「常磐大学がどのようなDNAを持っているのか、それを知ることが重要だと思います。諸澤英道理事長は開学100周年に当たり、『世界的視野で考え、行動できる人間を育てる。』という教育の基本理念を掲げました。それを実現するヒントが、常磐大学のDNA、つまり創立者である諸澤みよの考え方にあるのではないのでしょうか。みよは封建主義に反発し、女性の自立による権利獲得のために裁縫教授所を設立しました。その目的は近代民主主義社会にも通じる、女性に開かれた社会の建設です。そして、この『開かれた』というのが常磐大学のDNAだと私は思います。現在、あらゆる大学が目指すべき『開かれた』という考え方に、当時から注目して教育機関を設立したことは、本当に素晴らしいことではないでしょうか」

では、これからの常磐大学は、どのように開かれていくべきなのでしょう。

「大学は世界の人々が集まる場、理想の多文化コミュニティであるべきです。つまり大学が開かれているということは、国内だけではなく海外の人々も集まってくることを意味しています。いろいろな言語、いろいろな文化を持った人たちが交流することにより、新しい学問、新しい知が生まれてくるのです。その点、常磐大学は地域との連携からスタートし、アメリカ、中国、タイ、韓国、台湾の大学と連携協力協定を結ぶなど、交流の場を海外に広げています。今後は、海外の大学との連携を戦略的にどう広げていくのか、また、さまざまな言語を持つ学生が共に学問をするため、学内での共通言語をどうするのかなどの課題をクリアする必要があると思います」

原点を見つめ直し、常磐大学のDNAを継承する。

それと同時に、学内でどのような教育を行うのか、その方向を示すことも必要となってくる。

「福澤諭吉は、明治政府の初代文部大臣であった森有礼と“education”という英語の翻訳を巡って論争を繰り広げています。森は、教えることによって人を育てる『教育』と訳しました。つまり知識量が人の能力を決めていくという、現在の教育の基本となっている考え方です。しかし、福澤は『発育』と訳すべきだと主張しました。人にはそれぞれ優れた能力があり、それを発見し育てていくことが教師の役割だと。これが教育力なのだと思います。福澤に私淑した諸澤みよも、自立した人間の育成は『教育の力』によってできると言っています。学校教育において、教師の役割が最も重要だということです。すべての人に開かれた大学は、学ぶ意欲のあるできるだけ多くの人々に学ぶ機会を与えるべきです。そして教育の力でその能力を引き出し、それを活かして社会に貢献する人材を育成することが大切なのだと思います」

『開かれた』をキーワードとする取り組みが、具体的に実践されているセクションもある。

「私が担当している情報メディアセンターも、すべての人に、いつでも開かれたライブラリーでありたいと思っています。そこで、5月から開館時間を午後9時まで延長しました」

今年度の6月は、前年度比で学生の貸出人数が約24%、貸出冊数は約33%増加した。開かれた大学を目指す取り組みは、すでに効果を上げつつある。



もり・せいいち ● 1943年生まれ。一橋大学大学院法学研究科博士課程中退。専門は法制史。慶應義塾大学法学部助教授を経て1988年教授。慶應義塾大学就職部長、学生部長、法学部長、同大学院法学研究科委員長、(学)慶應義塾常任理事を歴任。慶應義塾大学名誉教授。2010年4月より現職。

常磐大学大学院

News!

学術文化交流協定を結んだ台湾の大学から留学生が入学

台湾の国立台北教育大学と連携協力協定を結んだ常磐大学は、春 Semester より同大学から留学生を受け入れた。留学生として来日したのは、国立台北教育大学大学院修士課程を修了した邱君妮(キュウ・クンニ)さん。博物館学を専門とする邱さんは、現在、常磐大学大学院人間科学研究科博士課程(後期)で博物館に関する日本の法律や政策などについて研究を行っている。

邱さんは、2008年に博物館評価の研究で常磐大学に来た際、コミュニティ振興学部の水嶋英治教授の指導を受けたことがきっかけで留学を決意。水嶋教授が研究を進めるデジタルアーカイブに関心を抱いたことはもちろん、博物館学博物館を擁するなど、常磐大学の充実した研究環境も魅力だったという。また、欧米ではなく、同じアジア圏の国で学ぶことにも意義を感じている。歴史的にも文化的にも関わりの深い日本の政策は、台湾の政策との比較研究に適しているからだ。



博物館でアジアをつなぐ架け橋のような人材になることが目標です。

キュウ クンニ  
邱 君妮さん  
常磐大学大学院  
人間科学研究科博士課程(後期)1年

邱さんは「まず、台湾の文化政策や博物館の発展に、貢献できる人材になることが目標です。そして、台湾とアジアの国々をつなぐ架け橋になればいいですね」と、今後の夢を語っていた。

国立台北教育大学との連携協力協定に伴う今後の取り組みとして、現在、水嶋教授が国立台北教育大学を訪問して行う特別レクチャーの開講が計画されている。その際には邱さんも、母国で研究発表を行う予定だ。

常磐大学幼稚園

News!

子どもたちの農園 ートキワファーム(稲づくり・トマト・サツマイモ・ヒマワリ)ー

年長組が稲づくりを始めて、4年目を迎える。

今年は一人ずつ、バケツに水稻米の苗を植えた。5月末から水がきれないよう、湧水を汲んでは運び入れた。お互いに声を掛け合い、自分以外の苗にも水を入れ、みんなで大切に育てていく約束をして進めている。

どんな天候時にも積極的に水やり、観察を行い、苗はみんなの愛情に支えられながら1m近くに生長した。これから穂が出て花が咲き実りの秋を迎える。無農薬で育てるがための困難はあるが、それらの過程もよく観察し合い、収穫を終えるまで世話をしていくことに

よって、いろいろな学びをもたらしてくれることを期待したい。

また、園の松林には、園長はじめ、おやじの会の方々にご協力をいただいた畑に、サツマイモ、トマトの苗、ヒマワリを年中、年長組を中心に植えた。自ら選び取った活動の合間に草取りをしたりジョウロで水やりをしたりし、生長の変化を目の当たりにしている。

身近にある野菜との関わりを通した、食育につながる学びの部分においては本園の教育課程に位置づけ、来年以降も続けていきたいと考えている。



常磐大学・常磐短期大学

- 硬式野球部  
関甲新学生春季リーグ戦 1部リーグ 7勝6敗 勝ち点3 4位
- 硬式庭球部  
関東学生テニストーナメント(春関) 予選敗退  
関東学生新進テニストーナメント 予選敗退
- 剣道部  
第56回学生剣道選手権大会 2回戦進出  
第42回女子学生剣道選手権大会 2回戦進出
- 弓道部  
第40回全関東学生弓道選手権大会団体予選 予選敗退  
第26回ひたちなか市近郊親善射会



弓道部



女子バスケットボール部

- バドミントン部  
関東学生バドミントン春季リーグ  
男子5部 2勝3敗4位 5部残留  
水戸市民大会  
男子1部 優勝、男子3部 準優勝  
関東学生バドミントン選手権大会  
男子シングル Bブロック-8 ベスト4  
Bブロック-1 ベスト8  
女子シングル 2回戦進出  
男子ダブルス Bブロック ベスト16  
女子ダブルス 2回戦進出
- 男子バスケットボール部  
第59回関東大学バスケットボール選手権大会出場  
第50回関東大学バスケットボール新人戦記念大会  
2回戦進出
- 女子バスケットボール部  
第44回関東大学女子バスケットボール選手権大会出場

常磐大学 高等学校

- 水泳部  
稲田実紗(3年) 2年連続インターハイ出場
- 男子テニス部  
茨城県高校総体で初のベスト8進出
- 体操部  
茨城県高校総体 男女とも優勝 インターハイ出場
- 女子サッカー部  
茨城県高校総体初優勝 関東大会出場
- 写真部  
全国高等学校総合文化祭 野口睦実(3年) 奨励賞
- 囲碁同好会  
全国高等学校総合文化祭  
佐々木萌子(2年) 県代表で出場



水泳部



女子サッカー部



体操部

智学館中等教育学校

- サッカー部  
第45回水戸市中学校総合体育大会 2回戦進出
- 男子バスケットボール部・女子バスケットボール部  
第45回水戸市中学校総合体育大会出場
- 軟式野球部  
第45回水戸市中学校総合体育大会出場
- 卓球部  
第45回水戸市中学校総合体育大会出場
- 男子硬式テニス部・女子硬式テニス部  
第40回茨城県中学生テニス選手権大会  
男子 団体5位  
女子 団体4位 ダブルス ベスト16



サッカー部



卓球部

### 〈企業動向〉

2011年3月卒業生の採用は大手企業を中心に山場を越えたが、全体的に見れば採用人数はほぼ前年度並みとなっており、抑制傾向が続いている。また、近年における質重視の採用姿勢は今年度さらに強まっている。多くの企業がそれぞれの望む人材の水準に達しなければ採用予定数に拘らないと明言しており、慎重に時間をかけて採用活動を行っている。

今年度後半では景気の見通しによるものの、採用活動を継続する企業に加え、福祉関係を中心に採用活動を始める企業も出てくるものと思われる。

### 〈学生動向〉

企業等が採用を抑制する中、Uターン学生との競争も激しくなっている。まだ多くの学生が就職活動を続けているが、自己分析や企業研究などについて準備不足のまま、受験を重ねている学生も少なからずいる。企業が質重視の採用姿勢を強めており、十分な準備をしなければ内定を得ることが難しくなっている。就職活動を継続している学生は、前半戦の就職活動を十分に振り返り、業種・職種・事業規模等の再検討や準備不足な点の補強を行うことが必要である。その上で、諦めず果敢に求人企業の採用試験に臨めば、内定獲得は見えてくる。

### 〈キャリア支援の取り組み〉

求人企業の情報収集に努め、就職活動を継続している学生に採用情報を提供していく。また、筆記試験や面接等について更に個別指導を徹底していく。



## 内定者レポート



広い視野での活動が  
自分の希望を  
叶えてくれました。

坂本 知之  
常磐大学 国際学部 英米語学科4年

### ●東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 内定

第一志望だったJR東日本から内定をいただき、今はほっとしています。最初は大学の授業で知った広告業界を目指していました。自分のアイデアで勝負する仕事に、魅力を感じたんです。しかし、広告業界はかなりの難関であることも事実。悩んだ末に、アイデアを生かす仕事は広告業界以外でもできると考え、他の業界にも目を向けてみました。その結果、地域活性化キャンペーンなどを行うJR東日本企画の親会社、JR東日本に強い興味を持ったんです。

試験対策で役に立ったのは、大学が行ったガイダンス。特にエントリーシートの書き方はとてもためになりました。実際に受けた企業は十数社と少なめでしたが、このような大学の支援もあり、納得のいく活動ができました。入社後は、同期の中でも一目置かれる存在になれるよう頑張りたいと思います。



大学の環境を活用し  
効果的な就職活動が  
行えました。

高原 恵理  
常磐短期大学 キャリア教養学科2年

### ●株式会社東邦銀行 内定

本格的に就職活動を始めるきっかけとなったのは、キャリア支援担当が主催する就職支援バスツアーで東京の合同説明会に参加したことです。全国から集まったたくさんの学生を前に、自分も頑張らなくてはと真剣に思いました。試験対策で役に立ったのは、大学で行われた公務員試験対策講座。幅広い知識を習得でき、効率的な対策が行えました。また短大では就職活動に直結する実践的な授業が多いので、しっかり受講しておいて良かったと思っています。

私は地元福島に貢献したいと考えていたので、東邦銀行が第一志望でした。でも金融以外の選考会にも数多く参加しました。結婚式場やカーディーラーなど、さまざまな業界の仕事を知ることができたのは、金融の仕事にも役立つと思います。これからは、誰からも頼られる行員を目指して頑張ります。

## 学ぶ楽しさ

◆ 諸澤 篤子 (学校法人常磐大学 常任理事)



本来人間にとって、学ぶことは自発的な欲求である。ここに2首の歌がある。

「学びたし さりとて何をと思うだに  
心弱くなりぬ 家に籠もれば」  
「背に入りし 髪の一筋とりいだし  
左千夫歌集を ノートに写す」

これは昭和28年9月に32歳で亡くなった私の母が、同じ年の5月に詠んだ歌である。戦後の混乱期も収まり、世の中が少し落ち着きを取り戻した頃の主婦の日常の一幕だ。その数ヶ月前から母は病気がちではあったが、育児と家事をしていた。その間のわずかの空いた時間にふと、勉強したい、と思ったのだろう。だがいったい何を学んだらよいかかわからず、手近にあった伊藤左千夫の歌集を開いて、好きな歌のいくつかをノートに写した。その光景を私は実際に見ているわけではないが、よく思い浮かべる。

当時、まだ家庭の主婦が学べるような機会も場所もほとんどなかった。それに比べて今は、誰もが学べる場所は至る所にある。私自身も結婚後、大学の授業の聴講や、カルチャーセンターなどで勉強を続けた。大学院で学んだ後は教職に就いていたが、その間もいろいろな機会を捉え、分野を問わずに学んだ。

大学や各種教育機関の行うフォーラムやシンポジウム、講演会、研究会などは、通常皆に開かれており、お金もかからず自由に参加できる。大学の授業自体も、多くは所定の手続きをとれば参加でき、レポートも出せるしテストを受けることもできる。案外知られていないが、大学は年齢を問わずに学びに行ける場所だ。世代の違う人たちと肩を並べて授業を受け、ランチを一緒に食べて仲良しの友達がたくさんできた。まさに、「誰でも」「いつでも」「どこでも」「何でも」勉強できるのである。母の生きた時代から見れば夢のようだ。もし今突然母が戻って来たら、どんな顔をするだろう。

科学も学問も、限られた人たちのためにあるわけではない。科学的知識や認識は人類共有の財産である。私たちは皆それを知り、理解し、そのことについて考え学ぶ楽しみを共有できるのだ。「生命は99パーセントが歴史、1パーセントが物理学だ」とサイエンスライターのPaul Daviesは言っている\*。250万年とも言われる長い文化の歴史の中で、私たち人類が意味づけてきた世界は超巨大かつ深淵で、それを学ぶ楽しさは尽きることがない。

\* Paul Davies, "The Goldilocks Enigma" (Penguin Books 2007).

## 開かれた大学 —学びたいときに学ぶ—

常磐大学・常磐短期大学では、大学の持つ知的資源を活用し、地域の人々の「学びたい」という意欲をサポートしている。単位取得を目指すものから、無料で受講できる講演会まで多くのニーズに対応したカリキュラムを用意している。

## ① 科目等履修生 (一般履修生)

常磐大学大学院・常磐大学・常磐短期大学が開講する授業科目を1科目から履修することができる。出願資格があり、選考の上で科目等履修生として入学が許可される。受講した科目の単位取得を目指すのが特徴。

## ② オープンカレッジ (公開講座)

教養講座や語学・パソコン・資格取得対策・ビジネスなどの多種多様なテーマで講座を開講。

## ③ 水戸夕学 (せきがく) 講座

学校法人慶應義塾の社会人教育機関である慶應丸の内シティキャンパスが実施している定例講演会『夕学五十講』を、インターネットを用いて、リアルタイムに受講する新しいタイプの講演会。講師は、大学人、企業人、

文化人、ジャーナリスト等、各分野の第一線で活躍する方々が担当。

## ④ 連続市民講座

(読売新聞東京本社水戸支局と常磐大学の連携事業)

2010年度で3年目を迎える講演会。今年度のテーマは、「地域社会への包摂と教育の可能性」。本学の教員がオムニバス形式で講座を担当している。

## 【問い合わせ】

①～③: エクステンションセンター

TEL.029-232-2852

④: 地域連携センター

TEL.029-232-2652

# 2009年度財務状況報告 - 2009年度決算について -

「財産目録」「貸借対照表」は、2009年度末時点での本学の財産・財政の状況を表す。2009年度の資産総額は29,520,581千円で、前年度より725,083千円の減少となった。これは、主に固定資産の減価償却によるものである。

「資金収支計算書」は、1年間のすべての活動に対応する収入・支出の内容と支払資金の顛末を表す。2009年度の資金収支規模は、10,013,745千円であり、次年度への繰越支払資金は4,691,413千円となった。前年度からの繰越支払資金と次年度への繰越支払資金の差額が、2009年度本学の諸活動の結果としての資金の増減を表し、343,500千円の増加となった。「資金収支計算書」は、資金の動きがすべて収入・支出として計上されることになる。本学では借入金がないことから、2009年度の増加分は自己資金の増加に結びついている。

本学の収入は、大半を学生生徒等納付金収入が占めている。資金増加の要因は、収入面では、学生確保が順調であったことが大きい。経常費補助金を始めとする補助金収入も、微増ではあるものの、前年を上回る額を獲得した。補助金収入は、学生生徒等納付金収入と並ぶ収入の柱であり、獲得に向けて全学的に教育・研究活動に取り組んだ成果が収入額として表れている。

## ■財産目録

(単位:千円)

I 資産総額	29,520,581
内 基本財産	21,931,273
運用財産	7,589,308
収益事業用財産	0
II 負債総額	1,734,546
III 正味財産	27,786,035

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	114,982.53㎡ 4,471,206
建物	82,508.26㎡ 14,700,163
図書	379,567冊 1,941,014
教具・校具・備品	32,808点 784,054
その他	34,836
2 運用財産	
現金預金	4,691,413
その他	2,897,895
3 収益事業用財産	0
<b>資産総額</b>	<b>29,520,581</b>
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0
その他	758,822
2 流動負債	
短期借入金	0
その他	975,724
<b>負債総額</b>	<b>1,734,546</b>
<b>正味財産(資産総額-負債総額)</b>	<b>27,786,035</b>

## ■貸借対照表

2010年3月31日

(単位:千円)

区 分	2009年度末	2008年度末	増 減
固 定 資 産	24,793,088	25,805,452	△1,012,364
有 形 固 定 資 産	21,902,604	22,523,838	△621,234
土 地	4,471,206	4,361,913	109,293
建 物	13,342,953	13,869,133	△526,180
構 築 物	1,353,220	1,512,851	△159,631
教育研究用機器備品	708,213	791,610	△83,397
その他の機器備品	75,841	92,449	△16,608
図 書	1,941,014	1,888,077	52,937
車 輛	6,167	7,805	△1,638
建設仮勘定	3,990	0	3,990
その他の固定資産	2,890,484	3,281,614	△391,130
借 地 権	15,563	15,563	0
電 話 加 入 権	5,017	5,017	0
施 設 利 用 権	8,089	8,686	△597
敷 入 保 証 金	1,258	1,472	△214
差 入 保 証 金	300,307	300,001	306
有 価 証 券	1,559,050	1,949,675	△390,625
第2号基本金引当資産	1,000,000	1,000,000	0
第3号基本金引当資産	1,200	1,200	0
流 動 資 産	4,727,493	4,440,212	287,281
現 金 預 金	4,691,413	4,347,913	343,500
未 収 入 金	34,583	92,299	△57,716
立 替 金	1,497	0	1,497
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>29,520,581</b>	<b>30,245,664</b>	<b>△725,083</b>
固 定 負 債	758,822	769,206	△10,384
退 職 給 与 引 当 金	758,822	769,206	△10,384
流 動 負 債	975,724	978,409	△2,685
未 払 金	91,032	69,510	21,522
前 受 金	884,692	908,899	△24,207
<b>負 債 の 部 合 計</b>	<b>1,734,546</b>	<b>1,747,615</b>	<b>△13,069</b>
基 本 金	33,989,341	33,875,751	113,590
第1号基本金	32,567,001	32,467,462	99,539
第2号基本金	1,000,000	1,000,000	0
第3号基本金	1,200	1,200	0
第4号基本金	421,140	407,089	14,051
消 費 収 支 差 額	△6,203,306	△5,377,702	△825,604
翌年度繰越消費支出超過額	△6,203,306	△5,377,702	△825,604
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>29,520,581</b>	<b>30,245,664</b>	<b>△725,083</b>

また、支出面では、主要科目である人件費、教育研究経費、管理経費ともに、経費節減に努めたことにより、予算額を下回る決算額となったことも資金増加の要因となった。

「消費収支計算書」は、1年間の消費収入・消費支出の内容とこれらの均衡の状態を表す。純資産の増減をもたらす収入・支出のみが計上されることなどが、「資金収支計算書」と異なる点である。2009年度の消費収支差額は、支出超過となったが、年々回復傾向にある。

本学では、学校法人としての公共性を認識し、今後とも財務内容の改善と向上に努めていく。

◎2009年度決算は、5月20日の理事会で決議され、同日、評議員会へ報告された。

### ■資金収支計算書 2009年4月1日から2010年3月31日まで

収入の部 (単位:千円)

科 目	2009年度予算	2009年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,195,164	4,149,904	45,260
手数料収入	88,516	101,210	△12,694
寄付金収入	65,000	56,547	8,453
補助金収入	966,986	1,013,046	△46,060
(国庫補助金収入)	496,582	534,291	△37,709
(地方公共団体補助金収入)	470,404	478,755	△8,351
資産運用収入	87,735	154,902	△67,167
資産売却収入	200,000	50,000	150,000
事業収入	69,932	87,793	△17,861
雑収入	10,733	28,315	△17,582
小 計	5,684,066	5,641,717	42,349
前受金収入	1,009,415	884,692	124,723
その他の収入	92,299	92,513	△214
資金収入調整勘定	△908,899	△953,090	44,191
前年度繰越支払資金	4,347,913	4,347,913	
収入の部合計	10,224,794	10,013,745	211,049

支出の部

人件費	給与支出	3,415,186	3,264,284	150,902
支出	退職金等支出	18,906	42,967	△24,061
教育研究経費支出		1,516,887	1,274,717	242,170
管理経費支出		600,955	508,588	92,367
施設関係支出		185,104	174,881	10,223
設備関係支出		91,723	76,614	15,109
資産運用支出		200,000	0	200,000
小 計		6,028,761	5,342,051	686,710
その他の支出		69,510	71,314	△1,804
予備費		30,000		30,000
資金支出調整勘定		0	△91,033	91,033
次年度繰越支払資金		4,096,523	4,691,413	△594,890
支出の部合計		10,224,794	10,013,745	211,049

### ■消費収支計算書 2009年4月1日から2010年3月31日まで

消費収入の部 (単位:千円)

科 目	2009年度予算	2009年度決算	差 異
学生生徒等納付金	4,195,164	4,149,904	45,260
手数料	88,516	101,210	△12,694
寄付金	65,000	61,506	3,494
補助金	966,986	1,013,046	△46,060
(国庫補助金)	496,582	534,291	△37,709
(地方公共団体補助金)	470,404	478,755	△8,351
資産運用収入	87,735	154,902	△67,167
事業収入	69,932	87,793	△17,861
雑収入	10,733	28,531	△17,798
帰属収入合計	5,484,066	5,596,892	△112,826
基本金組入額合計	△123,676	△113,590	△10,086
消費収入の部合計	5,360,390	5,483,302	△122,912

消費支出の部

人件費	給 与	3,415,186	3,264,284	150,902
	退職金等	22,864	32,798	△9,934
教育研究経費		2,295,675	2,044,903	250,772
管理経費		711,360	614,975	96,385
資産処分差額		0	342,338	△342,338
徴収不能引当金繰入額		0	9,608	△9,608
予備費		30,000		30,000
消費支出の部合計		6,475,085	6,308,906	166,179
当年度消費支出超過額(△)		△1,114,695	△825,604	
前年度繰越消費支出超過額(△)		△5,377,702	△5,377,702	
翌年度繰越消費支出超過額(△)		△6,492,397	△6,203,306	

# 2009年度事業報告

## 法人関連事業

### ① 開学100周年記念事業

#### ・ グランドデザイン策定

- Mission 世界的視野で考え、行動できる人間を育てる。  
 Vision (a) 自立を確立する「智」の教育を推進する。  
 (b) 豊かな創造性と真摯な学びの教育を推進する。  
 (c) グローバル・コモンスの構築を行う。  
 (d) 公益事業としての学校教育を支える経営基盤を整備する。

- 施策 (a) 一貫教育と総合学園構想に向けた施策  
 (b) 教育改善に向けた施策  
 (c) 教育実践研究に向けた施策  
 (d) 学習支援に向けた施策  
 (e) エコ・キャンパス構築に向けた施策  
 (f) グローバル・コモンス構築に向けた施策  
 (g) 研究改善に向けた施策  
 (h) 経営基盤改善に向けた施策

#### ・ 第13回国際被害者学シンポジウム開催

- 期間：2009年8月23日から8月28日まで  
 場所：見和キャンパス内、水戸プラザホテル（開会式、Welcome Reception）およびホテルレイクビュー水戸（Banquet）  
 内容：世界被害者学会主催の第13回国際被害者学シンポジウムを共催者として支援  
 参加者：485名（47の国と地域）

#### ・ 開学100周年記念式典

- 開催日：2009年11月22日  
 場所：水戸プラザホテル  
 内容：記念式典、記念演奏会、記念祝賀会  
 参加者：404名

#### ・ 開学100周年記念ホームカミングデー

- 開催日：2009年11月22日  
 場所：見和キャンパス内  
 内容：大学院、大学、短期大学、高等学校の卒業生を対象としたミニコンサート、懇親会および各種企画・展示  
 参加者：373名

#### ・ 開学100周年記念冊子「常磐百年のあゆみ」制作

- 内容：写真を中心とした記念冊子の制作  
 発行日：2009年11月22日

#### ・ 開学100周年記念史制作

- 内容：学校法人常磐大学の歴史と今後の展望を中心とした記念史の制作（2011年度まで）

#### ・ 常磐大学教育実践研究所開設および開所式典

- 開催日：2009年9月26日  
 場所：Q棟5階教育実践研究所内  
 内容：開所式典、テープカット、講演会、祝賀会  
 参加者：70名

#### ・ 開学100周年記念講演会

- (第1回)  
 開催日：2009年10月17日  
 場所：見和キャンパス内  
 講師：寺島実郎（財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長、(株)三井物産戦略研究所会長）  
 テーマ：『世界の構造転換と日本—そして大学の進路』  
 参加者：194名

- (第2回)  
 開催日：2010年3月13日  
 場所：見和キャンパス内  
 講師：Gerald. L. Curtis（学校法人常磐大学顧問、コロンビア大学政治学教授、東京財団特別研究員）  
 テーマ：『日米両国 民主党の“成績表”』  
 参加者：91名

#### ・ 開学100周年記念広報

- 内容：見和キャンパス敷地北側斜面へのバナーサイン設置、J R

水戸駅構内、新聞広告 他

### ② 大学・大学院の認証評価実施

- 期日：書面調査 2009年5月から9月まで  
 実地視察 2009年10月27日  
 評価結果通知 2010年3月12日（結果：適格）  
 内容：財団法人大学基準協会評価員による書面調査および実地視察（面接、学内視察等）の実施

### ③ 内部監査の実施

- 内容：大学および短期大学に関する事務部門について、業務計画、予算管理、資産管理、研究教育、労務管理および事務管理の側面から業務監査を全般的に実施

## 連携関連事業

### ① 水戸ホーリーホック連携協力協定締結

- 目的：「地域に支えられ、地域と共に歩み、地域に貢献してゆく。」を理念とするJリーグに加盟し、様々な地域貢献に取り組む、水戸ホーリーホックと連携協力することで、地域社会の活性化および両者の発展的な事業を推進する。  
 調印式：2010年2月23日

### ② 外国大学連携

- a) 国立韓国伝統文化学校との連携協力協定締結  
 目的：大学相互間のあらゆる教育リソースの交流を促進する。  
 調印式：2010年3月23日  
 b) 国立台北教育大学との連携協力協定締結  
 目的：大学相互間のあらゆる教育リソースの交流を促進する。  
 調印式：2010年3月25日

### ③ 官産学連携

- a) 常陸太田市との連携協力協定締結  
 目的：大学と常陸太田市の相互の人的・物的資源の活用により、地域の発展および人材の育成を図る。  
 調印式：2009年5月29日  
 b) 高萩市との子育て支援に関する連携協力協定締結  
 目的：子育て支援に関して相互に連携協力することで、両者が保有する知的、人的財産を活かした子どもの健やかな成長と実りある子育て支援を実現する。  
 調印式：2009年12月11日  
 c) 社団法人茨城県経営者協会「産学連携講座」開設（3年目）  
 目的：茨城県を代表する企業経営者および管理者による講義を通し、地域経済の実態と各社の実践する経営活動等について理解を深めるとともに、社会人として必要な心構えや能力を育成する。  
 調印式：2009年4月9日  
 d) 読売新聞東京本社水戸支局・常磐大学連携事業「連続市民講座」  
 内容：地域の人々と大学を結び、幅広い年代の学ぶ意欲に応えていく試みとして、読売新聞東京本社水戸支局との共催により、「地域社会の安心・安全・安定を考える」を大きなテーマとして、全7回の講座を開催。  
 開講式：2009年4月18日

## 施設・設備整備事業

### ① 見和キャンパス校舎改修等

- a) A棟空調更新工事  
 内容：A棟地下1階ミュージアム資料室・展示室空調更新工事  
 b) I棟修繕工事  
 内容：I棟外壁の修繕塗装  
 c) K棟2階改修(5期目)  
 内容：既存施設有効利用計画に伴い、K棟2階の学部共有スペースに改修  
 d) K棟修繕工事  
 内容：K棟外装修繕および屋上屋根防水修繕工事  
 e) L棟食堂修繕工事  
 内容：L棟食堂床、内壁および外壁の修繕工事  
 f) O棟外装修繕工事  
 内容：O棟外装修繕工事  
 g) Q棟改修工事  
 内容：教育実践研究所設置に伴い、Q棟4階および5階を改修

- h) 幼稚園園舎改修
  - 内容：幼稚園園舎1階トイレの改修および床暖房設備の導入
- ② 小吹キャンパス校舎改修等
  - a) 中等教育学校トイレ改修工事
    - 内容：生徒動線等を考慮した上でのトイレ増設工事
  - b) 小吹グラウンド整備工事
    - 内容：野球場ライト側防球ネット増設、野球雨天練習場増設および駐車場を新たに整備
  - c) 中等教育学校校舎2期建築工事設計
    - 内容：2011年度後期課程開始に伴う校舎2期建築工事に係る設計管理
- ③ 新荘キャンパス校舎改修等
  - a) 高等学校体育館外装修繕工事
    - 内容：体育館の外装塗装および補修
  - b) 高等学校1号館および5号館黒板交換工事
    - 内容：現有黒板の老朽化に伴う交換に合わせて、板書スペースの拡張、見易さの向上を図り、スライド式へ変更
- ④ 見和地区土地購入
  - a) 水戸市土地開発公社所有地(茜梅寮敷地)
    - 購入年次計画(7年目、計画完了)
    - 位置：水戸市見和一丁目449番3
    - 地目：畑 面積：1,424㎡
  - b) 旧諸澤幸雄邸土地および建物の購入
    - (土地購入)
      - 位置：水戸市見和一丁目449番26
      - 地目：宅地 面積：120.38㎡
      - 位置：水戸市見和一丁目449番27
      - 地目：宅地 面積：314.63㎡
      - 位置：水戸市見和一丁目449番43
      - 地目：宅地 面積：42.50㎡
    - (建物購入)
      - 所在：水戸市見和一丁目449番地27、449番地26
      - 家屋番号：449番27
      - 種類：居宅 構造：木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建
      - 床面積：120.32㎡
      - 完成年月日：2001年11月1日新築

- 第13号 寄附行為第5条第2項に規定する理事長の互選に関する件
- 第14号 役職者人事に関する件
- 第15号 寄附行為第25条第1項第1号に規定する評議員の選任に関する件
- 第16号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第17号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件
- 第18号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第19号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件
- 第20号 学校法人常磐大学給与規程の一部変更に関する件

#### 第4回理事会 2010年3月25日

現在数 11名(出席者10名・委任状出席1名・欠席者0名)  
 監事出席 1名  
 <審議>

- 第21号 寄附行為第6条第1項第3号に規定する理事の選任に関する件
- 第22号 寄附行為第6条第1項第4号に規定する常任理事の選任に関する件
- 第23号 寄附行為第25条第1項第3号に規定する評議員の選任に関する件
- 第24号 寄附行為第5条第2項に規定する理事長の任期訂正に関する件
- 第25号 役職者等人事に関する件
- 第26号 常磐大学幼稚園園則の一部変更に関する件
- 第27号 2010年度事業計画に関する件
- 第28号 2010年度収支予算に関する件

#### 2) 評議員会開催状況

##### 第1回評議員会 2009年5月22日

現在数 23名(出席者18名・委任状出席5名・欠席者0名)  
 監事出席 2名  
 <審議>

- 第1号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の選任に関する件  
<諮問>
- 第1号 2009年度事業計画の追加に関する件
- 第2号 2009年度収支補正予算に関する件
- 第3号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第4号 学校法人常磐大学経理規程の一部変更に関する件
- 第5号 学校法人常磐大学開学100周年記念事業に関する件

##### 第2回評議員会 2009年9月9日

現在数 23名(出席者16名・委任状出席6名・欠席者1名)  
 監事出席 2名  
 <審議>

- 第2号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の選任に関する件  
<諮問>
- 第6号 学校法人常磐大学資産運用規程の制定に関する件
- 第7号 学校法人常磐大学開学100周年記念事業に関する件

##### 第3回評議員会 2009年12月3日

現在数 23名(出席者16名・委任状出席5名・欠席者2名)  
 監事出席 2名  
 <審議>

- 第3号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の選任に関する件  
<諮問>
- 第8号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第9号 常磐大学大学院学則の一部変更に関する件
- 第10号 常磐大学学則の一部変更に関する件
- 第11号 常磐短期大学学則の一部変更に関する件

##### 第4回評議員会 2010年3月25日

現在数 23名(出席者18名・委任状出席5名・欠席者0名)  
 監事出席 1名  
 <審議>

- 第4号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の任期満了に伴う選任に関する件
- 第5号 寄附行為第25条第1項第4号に規定する評議員の申し出による辞任に伴う選任に関する件
- 第6号 寄附行為第6条第1項第2号に規定する理事の選任に関する件  
<諮問>
- 第12号 常磐大学幼稚園園則の一部変更に関する件
- 第13号 2010年度事業計画に関する件
- 第14号 2010年度収支予算に関する件

## 2009年度理事会等開催状況

### 1) 理事会開催状況

#### 第1回理事会 2009年5月22日

現在数 11名(出席者11名・委任状出席0名・欠席者0名)  
 監事出席 2名  
 <審議>

- 第1号 2008年度事業実績(案)に関する件
- 第2号 2008年度収支決算(案)に関する件
- 第3号 特別代理人候補者選任に関する件
- 第4号 2009年度事業計画の追加に関する件
- 第5号 2009年度収支補正予算に関する件
- 第6号 学校法人常磐大学寄附行為の一部変更に関する件
- 第7号 学校法人常磐大学経理規程の一部変更に関する件
- 第8号 学校法人常磐大学開学100周年記念事業に関する件

#### 第2回理事会 2009年9月9日

現在数 11名(出席者10名・委任状出席1名・欠席者0名)  
 監事出席 2名  
 <審議>

- 第9号 学校法人常磐大学常任理事規程の一部変更に関する件
- 第10号 学校法人常磐大学資産運用規程の制定に関する件
- 第11号 学校法人常磐大学開学100周年記念事業に関する件

#### 第3回理事会 2009年12月3日

現在数 11名(出席者10名・委任状出席1名・欠席者0名)  
 監事出席 2名  
 <審議>

- 第12号 寄附行為第6条第1項第3号に規定する理事の選任に関する件

schedule

2010年度学事日程 (10~12月)

月	日	内 容
10	1	(智)第3学期始業式
	2	(智)学校説明会 (幼)アスレバル(運動会)
	9	(院)春 semester 1期試験(修士)
	10	(院)春 semester 1期試験(博士)
	14	常磐フォーラム
	16	(智)オープンスクール
	19	(短)1年生父母懇談会
	23	ときわ祭(10/24まで)★ (大)人間科学部(第8期卒)ホームカミングデー (高)学校説明会
	30	(高)学校説明会
	11	1
6		(大)一般推薦・編入学(A日程)試験 (智)学校説明会
7		(短)一般推薦・社会人・卒業見込者試験 (高)学校説明会
13		(大)指定校推薦試験
14		(短)指定校推薦試験
20		連続市民講座 講演編⑤
23		(智)第1回入試
26		評議員会、理事会
12	4	国際被害者学研究所第5回シンポジウム(12/5まで) (短)生活発表会
	11	(智)学校説明会
	19	(短)幼児教育保育学科(2009年度卒業生) ホームカミングデー
	20	(幼)第2学期終業式
	22	(高)第2学期終業式
		(智)第3学期終業式

※諸般の事情により日程が変更になる場合があります。

★常磐大学・常磐短期大学 学園祭「ときわ祭」開催!!  
10月23日(土)・24日(日) 両日とも10:00~16:00

◎ゼミナール研究発表、サークル発表、模擬店、お笑いライブ、ミスコンテストなど楽しい企画が盛りだくさんです。ぜひご来場ください。

編集後記

記録的な猛暑となった今年の夏。その暑さにも負けず「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー」が開催されました。このイベントは学校法人常磐大学が設置するすべての学校が参加して行われたプロジェクト。園児、生徒、学生たちの生き生きとした姿を一度に見ることができる貴重な機会となりました。

寄付者ご芳名 (敬称略) [2010年4月~7月受付分]  
ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

■諸澤幸雄奨学金の創設・充実

企 業	
100,000円	20,000円
株式会社内田洋行 首都圏営業部 営業2課	東部瓦斯株式会社茨城支社
10,000円	
広告社株式会社	株式会社山忠
栄 陽子留学研究所	芳名のみ公表
30,000円	株式会社進研アド
スタジオ・メイ	ナカバヤシ株式会社東京本社
個 人	
150,000円	7,000円
竹中 治利 *	清宮 一彦 *
110,000円	6,000円
中崎 啓子 *	久松 雄大 *
100,000円	5,000円
匿名	会田 賢司
70,000円	佐々木 悦子
中村 和彦 *	3,000円
30,000円	匿名
後藤 政子	1,000円
小橋 恵子 *	坂井 知志 *
14,000円	芳名のみ公表
大槻 行徳 *	伊東 昌子
関 敦央 *	岩間 肇 *
12,000円	小野 富士子
鈴木 辰一 *	木村 一見
10,000円	工藤 典人 *
青木 伸雄	清水 敏成 *
加藤 和子	関 いづみ *
鴨志田 千春	千葉 茂 *
佐藤 ゆき子	長南 直宏 *
土井 昌子	中村 智恵子
中原 恭子	西川 万文
若山 紗央里	

諸澤幸雄奨学金の創設・充実 累計寄付金額 57,184,326円

■教育実践研究所の行う教育支援

230,000円 諸澤 篤子 \*

◎「諸澤幸雄奨学金の創設・充実」、「教育実践研究所の行う教育支援」それぞれについて、複数回お申し込みくださいました方は、芳名に\*を付し累計額を表示いたしました。

■寄付金をお願い

2009年11月より、諸澤幸雄奨学金制度の充実および継続的運営を目的とした、開学100周年記念事業募金が始まりました。皆様におかれましては、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【寄付金の申し込みおよび問い合わせ】

学校法人常磐大学 寄付資産運用課

TEL. 029-232-2759 E-mail : kifu@tokiwa.ac.jp

寄付募集の詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.tokiwa.ac.jp/>